

平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査結果の概要について

山梨県教育委員会

1 調査の本県の概要

○実施日 平成31年4月18日（木）

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学，英語（3年に一度））

- ・出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し以下の通りとする。調査問題では，下記ア）とイ）を一体的に問うこととする。

ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

- ・中学校英語調査の結果については，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また，「話すこと」調査結果については，全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし，都道府県別，指定都市別の公表は行わない。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査，学校に対する調査

○対象 小学校第6学年，中学校第3学年の全児童生徒

○県内(公立学校)の実施状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合計
学校数 (分校含む)	167校	0校	81校	4校	252校
児童生徒数	6,446人		6,415人		12,861人

2 全体についてのコメント

①全体的に見て、昨年度よりも改善している。

- ・ 全国平均と同等もしくは上回る教科が増えてきた。
- ・ 全国平均を下回る教科についても、その差はわずかである。

平成31年度(令和元年度) 本県の調査結果(公立) 【悉皆】

	小学校調査		中学校調査		
	国語	算数	国語	数学	英語
平均正答数(本県)	8.7/14	9.3/14	7.5/10	9.5/16	11.6/21
平均正答数(全国)	8.9/14	9.3/14	7.3/10	9.6/16	11.8/21
全国平均正答数との比較	★	—	☆	★	★
平均正答率(本県)	62	66	75	60	55
平均正答率(全国)	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0

※全国平均正答数を上回っている(☆), 同値(—), 下回っている(★)

※教科に関する調査の平均正答率は、±10%の範囲内(−1.8, −0.6, +2.2, +0.2, −1.0)にあり、全国的に見て大きな差はないと判断できる。

平成30年度 本県の調査結果(公立) 【悉皆】

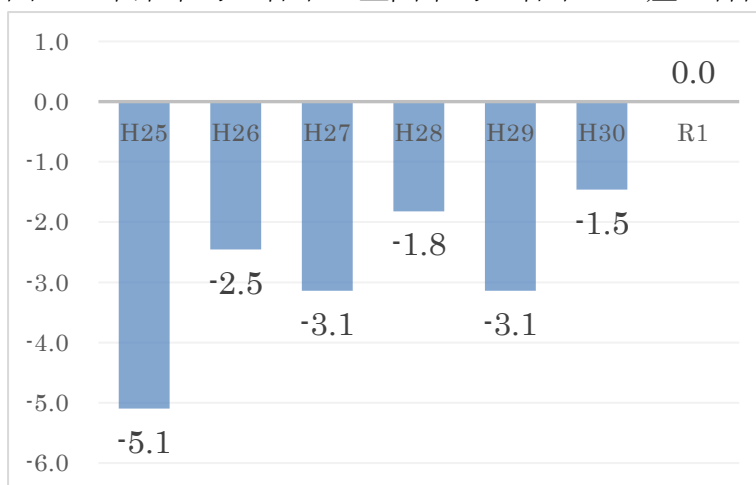
	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数(本県)	12.8/20	13.7/24	30.0/41	30.3/50
平均正答数(全国)	12.9/20	14.0/24	29.8/41	30.4/50
全国平均正答数との比較	★	★	☆	★

※今年度調査より、全ての教科において知識(A)・活用(B)を一体的に問う問題形式となり、従来のAB区分がなくなったことを受け、昨年度の平均正答数についてはABを合算した。

②経年的に見て、改善の傾向が読み取れる。

- ・ 平成25年度には全国平均から−5.1ポイントの差があったが、年々その差を縮め、本年度は差がなくなった。
- (平成25年度からは5.1ポイント、平成30年度からは1.5ポイント平均との差を縮めた。)(図1)

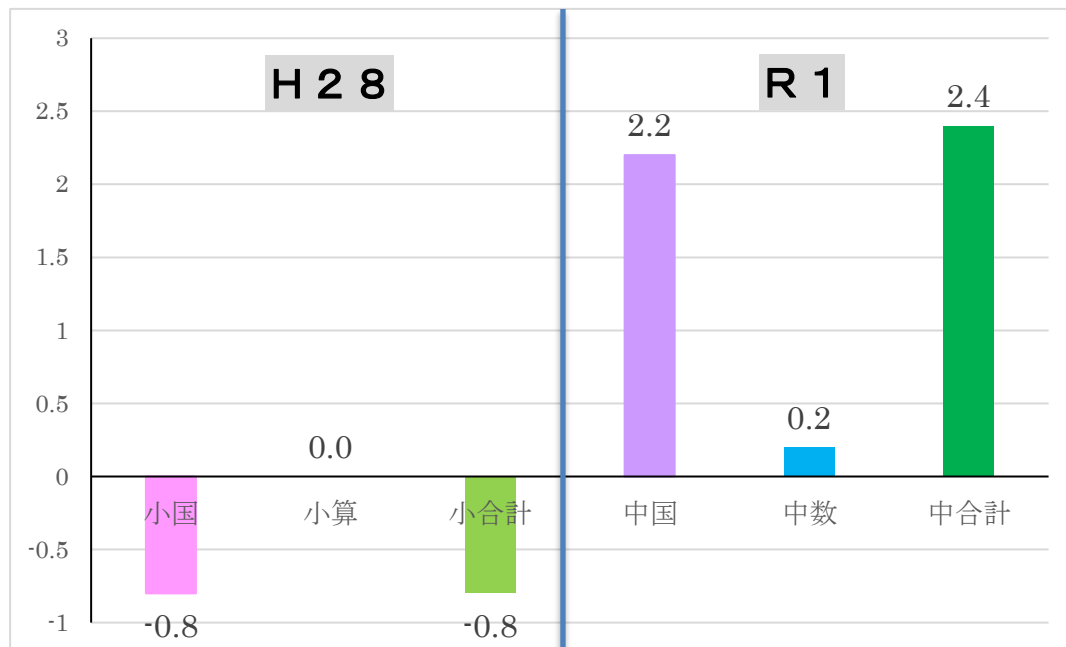
図1 本県平均正答率と全国平均正答率との差の合計の推移(英語を除く)



※今年度調査より、全ての教科において知識(A)・活用(B)を一体的に問う問題形式となり、従来のAB区分がなくなったことを受け、過去調査の各年度におけるABの平均正答数を合算し、改めて平均正答率を算出してグラフを作成しなおした。

- ③同一生徒（中学3年生が小学校6年時）の比較では、3.2ポイント上昇している。（小学校6年時－0.8から、本年度＋2.4に全国平均を上回るまで、伸びを示している。）（図3）

図2 小学校6年（H28）と中学校3年（R1）における全国平均正答率との差



- ④質問紙調査においては、昨年度までと同様に、多くの項目で全国平均を大幅に上回っている。

<児童生徒質問紙>

- ・学習に関する項目の90%以上において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・学習環境や生活環境に関する項目において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が非常に高い。
(例)「人が困っているときは、進んで助けていますか」

<学校質問紙>

- ・100%の肯定的な回答を示している項目がある。これは、全県的な取組が浸透している成果である。
(例)「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」

- ⑤中学校 英語「話すこと」調査について

- ・文部科学省から「参考値（平均正答数1.5／5問 平均正答率30.8%）」として集計された。

3. これまでの取組

1 学力向上総合対策事業の推進

授業改善

- 学力向上推進事業（学力向上対策会議，学力向上キャラバン）
- 学びのサイクル改善事業
- 主体的・対話的で深い学び推進事業
- 学力向上支援スタッフ配置事業
- 中学生英語力向上サポート事業
- 読解力・記述力向上推進事業
- 山梨県学力把握調査事業

教員の資質向上

- 授業力養成事業
- ミドルリーダー研修事業
- 若手教員グローアップ事業

家庭・地域との連携

- 家庭学習習慣化促進事業

2 やまなしスタンダードの推進

- ・「やまなしスタンダード～授業づくりの7つの視点」のもと，県全体で授業づくりの取組を進めている。

3 地域の実態に応じた取組の実施

- ・地域学力向上推進幹を中心とした，各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策を進めている。

4 県教委による採点および採点講習会の実施

- ・小・中学校の答案を総合教育センター指導主事（小・中・高）が採点し，今年度の傾向を分析した。また，自校採点の方法等に関する講習会（小・中）を実施した。

5 各種説明会を通じた早期の授業改善の推進

- ・管理職研修会（6月4日・11日）を通じて，授業改善のための組織的な対応を促した。また，学力調査を踏まえた授業改善のための説明会（小：6月18日，中：6月20日）を開催し，誤答の分析方法や授業改善のポイントをまとめた冊子を配付して，早期の授業改善を促した。

4. 結果を踏まえた今後の取組

○指導主事による学校訪問

- ・市町村，学校毎の状況を把握することにより，成果や効果的な実践を共有し，学校訪問を通じて指導改善の取組の周知・徹底を図る。

○「学力向上フォーラム2019」の開催

- ・大学の教授を講師に招聘して，全国学力・学習状況調査より明らかになった課題，学校での学習と学力向上対策等についての講演をいただく。また，学力向上総合対策事業である「学びのサイクル改善事業」，「読解力・記述力向上推進事業」に関わった実践例を紹介して，県内小・中学校の確かな学力の定着と向上を図る。

○「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・県の学力把握調査や全国学力・学習状況調査の結果を受け，課題がある学習内容についてのピックアップ問題を作成し，確実な学力の定着を目指す。

1. 各教科の概要

以下の3つの視点から分析を行った。

- 正 平均正答率が高いまたは低い主な設問
- 差 全国の平均正答率と差が見られる主な設問
- 経 経年比較で成果や課題が見られる主な設問

小学校

教科	よくできている設問 (○) 課題がある設問 (△)		平均正答率 (%)		理由
			山梨県	全国	
国語	○	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する〔2二〕	88.2%	88.5%	正 経 平均正答率が高く、経年的に改善の傾向が見られる。 〔H26 B 2三 県 64.5% 全国 66.0%〕
	△	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□□に、「2調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く〔1三〕	28.2%	28.8%	正 経 平均正答率が低く、経年的にも課題が見られる。 〔H30 B 2二 県 12.8% 全国 13.5%〕
算数	○	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く〔2(2)〕	81.2%	78.6%	正 差 平均正答率が高く、全国平均を2.6ポイント上回っている。
	△	1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ〔3(4)〕	43.5%	47.0%	正 差 平均正答率が低く、全国平均を3.5ポイント下回っている。

中学校

教科	よくできている設問 (○) 課題がある設問 (△)		平均正答率 (%)		理由
			山梨県	全国	
国語	○	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く〔1三〕	93.1%	91.2%	正 平均正答率が高く、全国平均を1.9ポイント上回っている。
	△	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く〔1四〕	60.0%	56.8%	正 経 平均正答率が低い。経年的にも課題が見られる。 〔H24 A 7五 県 75.2% 全国 73.7%〕

数 学	○	△ABCを、矢印の方向に△DEFまで平行移動したとき、移動の距離を求める〔3〕	85.7%	83.6%	正 差	平均正答率が高く、全国平均を2.1ポイント上回っている。
	△	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する〔6〕(2))	33.9%	34.7%	正 経	平均正答率が低く、経年的にも課題が見られる。 〔H28 B〔3〕(3) 県 29.3% 全国 30.3%〕
英 語	○	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える〔2〕	73.2%	71.8%	差	全国の平均正答率を1.4ポイント上回っている。
	△	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く〔10〕	1.5%	1.8%	正 差	平均正答率が非常に低く、全国平均を0.3ポイント下回っている。

※文部科学省は、英語「話すこと」については、全体的に課題が多く、特に即興でやり取りすることに課題があるとしている。今後、設置者及び学校毎に授業改善を進める必要がある。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果

(1) 児童生徒質問紙

※全国平均を上回る主な内容 <上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>
<数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

質問項目	小学校	中学校
① (小中共通) 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	87.7% +4.9	81.2% +6.3
② (小中共通) 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	83.0% +6.1	79.4% +7.8
③ (小中共通) 国語の授業の内容はよく分かりますか	88.7% +3.8	83.9% +6.3
④ (小学校) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	81.6% +5.1	
⑤ (中学校) 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか		87.9% +2.5
⑥ (小中共通) 人が困っているときは、進んで助けていますか	92.6% +4.7	90.3% +4.4
⑦ (小中共通) 今住んでいる地域の行事に参加していますか	79.7% +11.7	65.8% +15.2

⑧ (小中共通) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	86.0% +12.0	84.2% +12.6
---	----------------	----------------

※全国平均を下回る主な内容 <上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>
<数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

質問項目	小学校	中学校
⑨ (小中共通) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) 【1時間以上】	65.5% -0.6	69.3% -0.5
⑩ 解答時間は十分でしたか(英語)		56.8% -6.2

(2) 学校質問紙

※肯定的な回答 100% を達成している項目

質問項目	小学校	中学校
①授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	100%	100%
②校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100%	98.9%
③調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	100%	98.9%
④学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	100%	97.7%
⑤調査対象学年の児童(生徒)に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	100%	94.1%
⑥調査対象学年の児童(生徒)に対する国語の指導として、前年度までに、児童(生徒)が行った家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導を行いましたか	100%	94.2%
⑦ (小)平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか (中)平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100%	94.1%

⑧調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	95.2%	100%
⑨調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	97.6%	100%

※学校質問紙において小学校・中学校ともに課題がみられる項目

質問項目	小学校	中学校
⑩（小）前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	52.1%	52.9%
（中）前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	-12.9	-15.1